

表1 有機質資材の作物別適正施用量の目安

(単位:現物あたりkg/10a・年)

資材名	水稲	麦	大豆	雑穀	飼料作物
牛ふん堆肥	200～1500	200～1500	500～2000	200～1500	3000～5000
牛ふんおがくず堆肥	500～2000	500～2000	500～3000	500～2000	3000～5000
豚ふん堆肥	200～500	200～500	200～500	200～500	1000～2000
豚ふんおがくず堆肥	500～1000	500～1000	500～2000	500～700	1000～2000
鶏ふん堆肥	100～400	100～400	100～400	100～400	-
鶏ふんおがくず堆肥	200～400	200～400	200～400	200～400	-
きのこ廃培地堆肥 (おがくず廃培地)	500～2000	500～2000	500～2000	500～2000	-
きのこ廃培地堆肥 (コーンコブ廃培地)	500～2000	500～2000	500～2000	500～1000	-
パーク堆肥	500～2000	500～2000	500～2000	500～2000	-
生ゴミ堆肥	200～500	200～500	200～500	200～500	-
稲わら	200～800	200～800	300～800	300～800	-
麦わら	200～600	200～400	300～600	300～600	-
もみがら	200～600	200～400	300～600	300～600	-
青刈り作物(イネ科)	1000～2000	1000～2000	1000～2000	500～2000	-

資材名	果樹	野菜	花き	茶	桑
牛ふん堆肥	500～2000	1000～3000	1000～2000	1000～3000	1000～2000
牛ふんおがくず堆肥	500～2000	1000～4000	1000～3000	1000～3000	1000～2000
豚ふん堆肥	300～1500	500～2000	500～2000	500～1500	200～1000
豚ふんおがくず堆肥	500～2500	500～3000	500～2000	500～1500	200～1000
鶏ふん堆肥	100～500	500～2000	100～1500	500～1000	500～1000
鶏ふんおがくず堆肥	200～600	500～2000	500～1500	500～1000	500～1000
きのこ廃培地堆肥 (おがくず廃培地)	500～3000	1000～3000	1000～3000	1000～2000	1000～2000
きのこ廃培地堆肥 (コーンコブ廃培地)	500～2000	1000～2000 (アスパラガスは 上限3000)	1000～2000	1000～2000	1000～2000
パーク堆肥	500～2000	1000～3000	1000～4000	1000～2000	1000～2000
生ゴミ堆肥	200～500	200～1000	200～1000	200～500	200～500
稲わら	500～2000	500～2000	500～3000	500～2000	500～2000
麦わら	500～2000	500～2000	500～3000	500～2000	500～2000
もみがら	500～2000	500～2000	500～2000	500～2000	500～2000
青刈り作物(イネ科)	4000～8000	4000～8000	4000～8000	2000～4000	2000～4000

- (1) 本表は一般的な施用量の目安であり、資材の腐熟度、土壌・土質等の違いにより増減するものとする。
- (2) 適正施用量は、土壌診断や作物生育状況から決めることが大切で、本表の最小値は、地力維持の観点から、最大値は、養分過剰が起きないようにという観点から定めた。資材を複数施用する場合も同様である。
- (3) 施用量については、窒素、りん酸、加里等の肥料的効果も勘案し、連用を前提とした年間施用量を示した。
- (4) 永年作物(果樹、茶、桑、アスパラガス等)や飼料作物の植え付け時や改植時には、窒素含有率が低く、木質をなるべく含まないよく腐熟した有機質資材については、ここに示す2～3倍量を目安としてもよい。
- (5) 野菜、花きの栽培期間の長い品目は、その栽培期間に応じて施用量を増加してもよい。
- (6) 堆肥の名称は「堆肥」の前に主原料をつけて「きのこ廃培地堆肥」のように表した。畜ふん堆肥は、副資材を含まないものは「牛ふん堆肥」のように表し、堆肥化の際に副資材が入る場合は、主原料、副資材の順に記し、「牛ふんおがくず堆肥」のように表した。また、畜ふん堆肥の副資材には、おがくずしか取り上げていないが、おがくず以外の副資材入り堆肥についても、施用量は同等とする。
- (7) 生ごみ堆肥は、家庭から排出された生ごみを主体とした堆肥を想定した。
- (8) 青刈り作物は、果樹では、改植時等のすき込み量を示し、野菜や花では全量すき込むこととして算出し、乾燥前の重量で示した。